

随筆

第一二回

時代の流れ

市長 明智 忠直



穏やかな平成31年の正月を迎えました。今年の4月で平成の時代が終わります。この30年間の日本の歩みはどうだったのでしょうか。大規模な自然災害が数多く発生し、経済はバブルが弾け、デフレ経済のもと低成長の時代でありました。経済大国日本も中国に抜かれ、GDPで世界第2位から第3位となりました。政治が経済をリードして安定成長へと誘導しなければならぬところで、日本の政治は総理大臣が短期間で変わり政権も安定しないなど、混乱する政治情勢でありました。

しかし現在は安倍政権による長期政権の中、世界からも信頼される日本のリーダーとして、安定的な政治運営を行っているところであります。いざなぎ景気を超えるといわれるほど、好景気が長く続いていることもやはり、政治の安定が経済につながっているものと考えられます。個人消費の伸び、商業地の地価の上昇、

オリンピック・パラリンピックや復興事業での建設需要の拡大、大手企業のベースアップなど、緩やかではありますが地方への影響も感じられるようになったと思います。ただ心配なのは、TPPや2月1日発効のEUとのEPAなどの影響であります。混乱がないよう政府にはしっかりと対策してもらいたいと思います。

このような平成の時代にあつて、天皇后陛下の国民への思いやり、ねぎらい、心配りは、私たちにとって尊いものであります。東日本大震災での旭市への行幸啓、避難所などで市民に話された言葉の一つ一つが鮮明に思い出され、感謝と尊敬の気持ちでいっぱいであります。本当に優しい両陛下のお姿でありました。旭市にとって、歴史の一ページがつけられたと思います。譲位という形もまた、今上天皇の英断で行われ、改めて新しい時代の天皇であったと振り返るところであります。